

## 仕様書

## 1. 件名

「戦略的イノベーション創造プログラム（SIP）第 2 期／自動運転（システムとサービスの拡張）／展示会等による社会的受容性の醸成効果測定に関する調査」

## 2. 目的・背景

総合科学技術・イノベーション会議（以下、「CSTI」という。）は、「イノベーションに最も適した国」を創り上げていくための司令塔機能を強化する観点から、府省間の縦割り排除、産学官の連携強化、基礎研究から出口までの迅速化のためのつなぎ等により直接的に行動していくための予算として、平成 26 年度から、「科学技術イノベーション創造推進費」（以下、「推進費」という。）を調整費として新たに創設し、内閣府に計上してきている。

国家的に重要な課題の解決を通じて、我が国産業にとって将来的に有望な市場を創造し、日本経済の再生を果たしていくことが求められているなか、「戦略的イノベーション創造プログラム」（以下、「SIP」という。）は、各府省の取組を俯瞰しつつ、更なるその枠を超えたイノベーションを創造するべく、CSTI が、戦略的に鍵となる技術の開発等の重要課題の解決のための取組に対して、推進費を原資として、府省の枠にとらわれず自ら重点的に予算を配分するプログラムである。

SIP 第 2 期は、当初計画を前倒しして、平成 29 年度補正予算により平成 30 年度より開始し、府省・産学官連携、出口戦略の明確、厳格なマネジメント等の優れた特徴を維持しつつ、国際標準化、ベンチャー支援等の制度改革の取組をさらに強化したものである。

SIP 第 2 期において、CSTI は、取り組むべき課題として 12 分野を定めており、そのうちの一つである自動運転（システムとサービスの拡張）（以下「SIP-adus」という。）においては、自動運転に係る激しい国際競争の中で世界に伍していくため、協調領域として取り組むべき世界最先端のコア技術（信号・プローブ情報をはじめとする道路交通情報の収集・配信などに関する技術等）を確立し、一般道で自動走行レベル 3 を実現するための基盤を構築し、社会実装することを目指している。また、自動運転に対しては交通渋滞の削減、高齢者や移動制約者の移動手段の確保といった社会的課題の解決や、物流や移動に係る新たなサービスやビジネスの創出等などが期待されている。

自動運転の普及においては、交通参加者に対して、自動運転により得られる便益や効用だけでなく、生じ得るリスクについても明らかにし、自動運転に関する将来像やルール等を含めた全体像について、市民等への理解増進を図る等、社会全体の認知度の向上と正しい理解を得る必要がある。このためには、継続的な情報発信や国民との双方向のコミュニケーションを積み重ねていくことが重要である。

そこで、本調査においては、「社会的受容性の醸成に向けた戦略策定と評価に関する調

査」による行動計画を受け、具体的な展示会等を開催し、その社会的受容性の醸成効果を測定する。

### 3. 調査内容

以下、(1)～(4)の展示会等について、新型コロナウイルスの感染拡大防止策の徹底とともに、新型コロナウイルスの感染の再拡大等によるリスク対策や会場やコンテンツの相互利用など、効果と費用効率の最大化を実現しつつ計画・開催し、その社会的受容性の醸成効果を測定すること。

#### (1) SIP 自動運転 成果発表会

SIP 第 2 期自動運転(システムとサービスの拡張)の研究開発計画の内容を踏まえ、東京臨海部、地方部における実証実験に関する取組の成果を中心として、自動運転分野における地理系データに係るアーキテクチャや交通環境情報の利活用技術等に関する基盤技術開発の成果、自動運転による社会的課題の解決、国際的な連携等について発信する展示会を、訴求するターゲット層を明確にして計画・開催し、そのターゲット層への訴求の程度、社会的受容性の醸成の効果を測定し、検証すること。成果発表会の開催形式については、展示会場を設営して集客を図るリアルな形式と動画や CG 等のコンテンツのインターネット配信等を行うヴァーチャルな対面形式（オンラインや VR 等の参加形式）を融合させ、ある特定の場所へ人が集中することを回避しつつ開催できる形式とすること。概要は以下の通り。

##### 【概要】

- ・時期：2021 年 2 月～5 月頃
- ・場所：首都圏

上記について、以下の(1-1)～(1-3)を提案し、内閣府・NEDO と適宜協議して実施すること。

#### (1-1) 計画

訴求するターゲット層を明確にし、成果発表会の実施に必要な工程、会場、出展者、内容等を計画すること。また、ターゲット層への訴求の程度や社会的受容性の醸成に係る目標等を設定すること。

#### (1-2) 運営

(1-1)の計画に基づき運営すること。具体的には、会場の設計・設営・撤去、運営マニュアル及びロジック作成、写真及び映像撮影、付帯業務、取材対応、報告等とする。

#### (1-3)効果測定

成果発表会のリアル、ヴァーチャルの参加者に対してアンケート等による社会的受容性の醸成等に係る効果の測定を実施し、(1-1)で設定した目標に対する達成度を検

証し、報告すること。なお、効果測定の方法については、アンケート以外の手法も提案すること。

## (2) 都市での市民ダイアログ

市民及びメディアに対する理解増進を目的として、市民ダイアログ（市民との対話会）を計画・開催し、その社会的受容性の醸成効果を測定すること。開催形式については、リアルな講演形式とヴァーチャル（オンライン講演等の形式）を融合させ、ある特定の場所へ人が集中することを回避しつつ開催できる形式とすること。概要は以下の通り。

### 【概要】

- ・時期：2021年2月～5月頃、2021年10月～11月頃
- ・場所：首都圏

上記について、以下の(2-1)～(2-3)を提案し、内閣府・NEDOと適宜協議して実施すること。

### (2-1) 計画策定

工程、会場、登壇者、内容等を計画し、社会的受容性の醸成に係る目標等を設定すること。

### (2-2) 運営

(2-1)の計画に基づき運営すること。具体的には、会場の設計・設営・撤去、運営マニュアル及びロジック作成、写真及び映像撮影、付帯業務、取材対応、報告等とする。

### (2-3)効果測定

市民ダイアログのリアル、ヴァーチャルの参加者に対してアンケート等による社会的受容性の醸成等に係る効果を測定し、(2-1)で設定した目標に対する達成度を報告すること。なお、効果測定の方法については、アンケート以外の手法も提案すること。

## (3) 地域での市民ダイアログ

自動運転の実装や実証が検討・実施されている地域において、市民ダイアログ（市民との対話会）を計画・開催し、その社会的受容性の醸成効果を測定すること。開催形式については、リアルな対話会形式とヴァーチャル（オンライン講演等の形式）を融合させ、ある特定の場所へ人が集中することを回避しつつ開催できる形式とすること。自動運転に対する正しい理解を広げていくため、多くの地域で効率的かつ継続的に市民ダイアログを開催するための仕組み（コンテンツやマニュアル等の共通化、地域における担い手等の検討等）を構築すること。開催概要は以下の通り。

### 【概要】

- ・時期：2020年11月頃～2021年11月頃（随時開催。適切な開催時期も提案すること）

- ・場所：自動運転の実装や実証が検討・実施されている地域

上記について、以下の(3-1)～(3-3)を提案し、内閣府・NEDOと適宜協議して実施すること。

#### (3-1) 計画策定

工程、会場、参加者、内容等を計画し、社会的受容性の醸成に係る目標等を設定すること。

#### (3-2) 運営

(3-1)の計画に基づき運営すること。具体的には、会場の設計・設営・撤去、運営マニュアル及びロジック作成、写真及び映像撮影、付帯業務、取材対応、報告等とする。

#### (3-3)効果測定

市民ダイアログのリアル、ヴァーチャルの参加者に対してアンケート等による社会的受容性の醸成等に係る効果を測定し、(3-1)で設定した目標に対する達成度を報告すること。なお、効果測定の方法については、アンケート以外の手法も提案すること。

### (4) SIP 自動運転 デモイベント

自動運転に関する成果展示や産業界と連携した試乗会等の体験型のイベントを、訴求するターゲット層を明確にして計画・開催し、そのターゲット層への訴求の程度、社会的受容性の醸成効果を測定し、検証すること。イベントの開催形式については、展示会場を設営して集客を図るリアルな対面形式と動画やCG等のコンテンツのインターネット配信等を行うヴァーチャル（オンラインやVR等の参加形式）を融合させ、ある特定の場所へ人が集中することを回避しつつ開催できる形式とすること。なお、(1)で作成等したコンテンツやノウハウを活用することで、効率的に開催すること。概要は以下の通り。

#### 【概要】

- ・時期：2021年10月～11月頃

- ・場所：首都圏

尚、本イベントについては産業界と連携するとともに、上記について、以下の(4-1)～(4-3)を提案し、内閣府・NEDOと適宜協議して実施すること。

#### (4-1) 計画

訴求するターゲット層を明確にし、イベントの実施に必要な工程、会場、出展者、内容等を計画すること。また、ターゲット層への訴求の程度や社会的受容性の醸成に係る目標等を設定すること。

#### (4-2) 運営

(4-1)の計画に基づき運営すること。具体的には、会場の設計・設営・撤去、運営マニュアル及びロジック作成、写真及び映像撮影、付帯業務、取材対応、報告等とする。

#### (4-3)効果測定

イベントのリアル、ヴァーチャルの参加者に対してアンケート等による社会的受容性の醸成効果の測定を実施し、(4-1)で設定した目標に対する達成度を検証し、報告すること。なお、効果測定の方法については、アンケート以外の手法も提案すること。

#### <調査に向けた留意点>

本調査を実施する上で、内閣府/NEDO、「社会的受容性の醸成に向けた戦略策定と評価に関する調査」の受託者と連携した上で対応すること。特に、効率化の観点から動画等のコンテンツについては、「社会的受容性の醸成に向けた戦略策定と評価に関する調査」の受託者による製作物を活用すること。連携のための定例会やコミュニケーション等の活動計画についても具体化して提案すること。

### 4. 全体スケジュール (案)

	2020年					2021年											
	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
(1) SIP自動運転 成果発表会									開催								
(2) 都市での市民ダイアログ								開催									開催
(3) 地域での市民ダイアログ																	
(4) SIP自動運転 デモイベント																	開催

### 5. 業務期間

NEDO が指定する日から 2021 年 12 月 28 日まで

### 6. 予算額

150 百万円以内

- 契約額は、審査の結果及び国の予算の変更等により、提案額から減額することがあります。
- 以上の予算額は 3.の全項目を受託した場合の予算額になります。

### 7. 最終報告書

- ・ 提出期限：2021年12月28日
- ・ 提出部数：電子媒体 CD-R（PDF ファイル形式） 1部
- ・ 提出方法：「成果報告書・中間年報の電子ファイル提出の手引き」に従って提出のこと。

<https://www.nedo.go.jp/itaku-gyomu/manual.html>

#### 8. その他事項

- ・ SIP 自動運転に関して過去に実施した成果発表会、市民ダイアログ、シンポジウム等を踏まえた提案内容とすること。具体的な事例は以下の通り。これら以外の事例や詳細については、SIP-adus のウェブサイト(<https://www.sip-adus.go.jp/>)を参照すること。
  - (1)2019年2月開催「自動運転のある未来ショーケース～あらゆる人に移動の自由を～(<https://www.sip-adus.go.jp/evt/showcase2019/>)」
  - (2) 2019年8月開催「市民ダイアログ@長野県伊那市(<https://www.sip-adus.go.jp/evt/citizens2019/>)」
  - (3)2019年11月開催「SIP 自動運転シンポジウム@東京モーターショー([https://www.nedo.go.jp/events/CD\\_100102.html](https://www.nedo.go.jp/events/CD_100102.html))」
- ・ ターゲット層に応じた効果的なフライヤーを作成し、SIP 自動運転(システムとサービスの拡張)に関連するウェブサイト SIP-cafe (<https://sip-cafe.media/>)や SNS 等を活用するなど効果的な広報に務めること。
- ・ リアル、ヴァーチャルな形式のいずれにおいても双方向のコミュニケーションを確保する取組とすること。
- ・ 委託期間中又は委託期間終了後に、報告を依頼することがある。